

本校舎 小学部グループ

1 研究主題

思考力・表現力を高めるための授業実践

2 研究テーマ設定の理由

本校舎小学部の児童は、聴覚障がいや生活経験の不足により日本語の獲得が不十分である。児童の表現方法は、音声言語、手話や指文字、ジェスチャー、イラスト等である。各学級とも学年の違いや、教育課程が通常、重複等様々であり、学びの方法は個に応じて行っている。

本研究では、教育活動全般を通して既習事項や経験と関連付けて自分に置き換えて考えたり、感じたことを自分の言葉で発表したりすることに継続して取り組み、「語彙を豊かにし(思考)、それを活用して表現する(表現)力」を高めることを目的として本テーマを設定した。

3 推進計画

1年次目の研究推進計画について示す。

月 日	研究活動	内 容
4月21日	第1回全校研究会	
5月17日	グループ研究会	研究の進め方について検討・確認
6月16日	研究授業①	2・4年 B組 自立活動「絵日記の発表」
7月8日	研究授業②	6年 A組 国語「私たちにできること」
7月22日	授業研究会	研究授業①、②について研究会
9月12日	研究授業③	4・5年 AB組 総合「プログラミング」
9月13日	授業研究会	研究授業③について研究会
11月17日	全校研究	iPad 事例研究会
11月17、18日	研究大会参加	東北聾教育研究会(宮城大会)
12月2日	学部研修会	石川敬氏 「思考力・表現力を高めるための指導と支援の在り方」
1月23日	グループ研究会⑥	グループ研究のまとめ
2月14日	第2回全校研究会	グループ研究の発表、全校研究のまとめ

4 授業（研究）実践


(1) 授業実践

本校舎小学部では、児童一人一人の思考力・表現力に注目した下図のような「目標設定シート」を使用し授業研究を行った。個々の課題や成果を学部職員全体で共有し、より良い指導や支援の方法について検討を重ねた。また、様々な学習活動の方法に触れ、新たな課題や児童の成長する過程について話し合い、理解を深めた。

令和4年度 小学部研究 目標設定シート（4年A組）		R4. 9.12		
1. 授業の流れについて		2. 重点的に取り組みたい項目について		
題材名（単元名） 総合 プログラミング 「自分で考えて作るう」	目標 (身につけさせたい力)	評価		改善案
		成果	課題	
<input checked="" type="checkbox"/> 学習活動（思考力） 自分で工夫を考え、教師と相談しながら作品を作ることができる。 <input type="checkbox"/> 学習活動（表現力） 作品を発表する。	<input checked="" type="checkbox"/> 思考力 ・作ったルーレットをもとに、どこをアレンジさせたいかを教師と相談して決めて作ることができる。	・教師と相談しながら作ることができた。 ・作りたいものを作品例から選ぶことができた。	・作品を作り上げることよりもタップをすること(操作する)自体を楽しんでいた。	・くみ一人でどんな作品にしたか絵を描いてみる時間を取ればよかったのではと思う。
	<input type="checkbox"/> 表現力 ・考えたことを作品にして表現することができる。 ・工夫したこと(頑張ったこと)を手話や指文字で表現することができる。	・教師の支援であきらめないで最後まで作ることができた。 ・緊張した表情だったが、感想を手話で発表することができた。	・教師の支援なしで一つ一つの手順を踏まえて作るのが難しい。 ・くんの感想が言えるような気持ちの引き出しの工夫が必要である。	・教師の支援なしで一人で正確に最後まで作するためには、一つ一つの手順をしっかり踏まえて練習の時間が繰り返し必要。 ・気持ちの伝え方で選択肢を用意する。はい、いいえの答えになる質問だけでなく、「簡単？難しい？」というどっちか？を含めた質問のあるやりとりで気持ちを引き出す。

「目標設定シート」 ● 思考力 ○ 表現力

ア. 2・4年B組 自立活動「絵日記の発表」

<p>研究授業 6月16日</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 思考力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で取り組んできた絵日記に書いてある文字や絵を見て、内容を思い出す。 ・自分の発表に対する質問の返答や、友達の発表への質問を考える。 ・iPadを使って伝えたいことを調べる。 <p><input type="checkbox"/> 表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声、手話、イラスト等で絵日記を発表したり、詳しく説明したりする。 	
<p>授業研究会 7月23日</p> <p>〈成果〉・絵日記を発表する中で他にも関連する事柄を思い出したり、言葉から内容をイメージしたりすることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での取り組みを振り返り、自分が家で見た絵本やDVDのことについて発表することが増えてきた。家庭での様子を伝える姿も増えた。 ・児童が教師に伝えられていないと感じた時には、関連するイラストや文字を書いて伝えようとしていたり、iPadで調べて伝えようとしていたりして「話すこと」以外に「自分で考えて伝える」ことができていた。 ・頑張ろうとして気持ちが上下する児童の心理状況に敏感に気付き、その気持ちに寄り添いながら、発表したい内容を的確につかもうとしている教師がいるからこそ、児童は安心し、もっと発表したいという気持ちが育ってきたのだと思う。 	

〈課題〉・絵日記は幼稚部から継続していることでもあるからか、馴れ合いが見られることや、家庭で子どもとやりとりする時間がもてず十分に取組めないことが多い。

- ・iPad を使いすぐに調べられる良さがある反面、遊びにつながりやすい。使い方を工夫し、児童との約束を決める必要がある。
- ・気持ちが落ち着かないことで発表を嫌がることもある。

☆改善案

- ・絵日記だけではなく、親子での読書を勧め感想を書くことやマス目のある様式に変えてみるのはいかがでしょうか。
- ・「発表」という型にとらわれず、朝の会話を認めたり、伝える相手を変えて意欲をもたせてみたりしてはいかがでしょうか。
- ・児童の言いたいことを教師の思いに引っ張ることなく、様々な可能性を含めながら児童の発言を尊重することが、安心感につながり新たな表現を獲得しようとするきっかけになる。

イ. 6年A組 国語「私たちにできること」

研究授業（節電について提案する文章を書こう） 7月8日

■思考力

- ・現状や問題点を整理し、調べた情報を使って提案する文章を構成する。
- ・書きたいことについて iPad で調べながら、提案文章を書く。

□表現力

- ・提案する文章を発表する。



授業研究会 7月23日

〈成果〉・ワークシートに示した「使いたい言葉」を選んで文章に当てはめて構成することができた。

- ・個別に話をしながら進めると、自分の考えを明確にすることができた。

〈課題〉・文章を読む経験の少なさや語彙力の少なさにより、文章のつながりや伝えやすさを意識することが難しい。

- ・iPad で検索する時の難しさ。
- ・調べた言葉の漢字を読めないまま書き写し、意味を理解しないで文章にしてしまうことがあった。

☆改善案

- ・休み時間にマンガや本を読む機会を設ける。学級文庫に取り入れてみてはどうか。
- ・教師との交換日記や中高等部の生徒と手紙のやり取りを行ってみてはどうか。
- ・教師が情報の精選や、子ども向けのもの、分かりやすいサイトを知る。
- ・児童が必ずしも同じテーマで書かなくても良いのではないか。それぞれがテーマを選んで決め、材料集めをすると書きやすい。
- ・文章の読み上げを動画で撮り、自分自身でも聞いてみることで文章の正しさや間違い、伝わりやすさなどに気づくきっかけになるのではないか。

ウ. 4・5年AB組 総合「プログラミング」

研究授業（自分で考えてルーレットを作ろう） 9月12日

■思考力

- ・自分で工夫することを考え、教師と相談しながら作品を作る。

□表現力

- ・作ったルーレット作品を発表する。



研究会	9月13日
〈成果〉	<ul style="list-style-type: none"> ・提示した作品例を参考にして、それぞれが自ら考えたり選んだりして作ることができた。 ・失敗に気づき、自分で考えて修正や調整する姿はとても良かった。 ・児童の興味関心に合っていてこれからの発展性にも期待できる実践だった。 ・児童の「考える」が様々見受けられた。 (色を変える、きれいに配色する、気づく、やり方を変える 等) ・T1, T2 から「がんばったところ」を細やかに承認したことで、児童たちの実感とつながっていてとても素敵だった。
〈課題〉	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自由に作る、工夫することにはまだ難しさがある。 ・教師の支援なしで順序立ててルーレットを作成することは難し児童には、教師が作成の流れを作ってしまったところもある。 ・動作の言葉と、その意味を理解しきれていなかった。「ブロック」や「ドラッグ」という言葉をどのように文にするか迷いがあった。
☆改善案	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なパターンでの例があるとより良かった。児童の好きな車や車輪が回る例があってもおもしろい。 ・児童がどんな作品を作りたいか、絵を描く時間をとってみても良いと思った。 ・いくつかの「工夫の仕方」を先に提示することで児童が他のアイデアを考えるきっかけになるのではないか。 ・動作の言葉の確認と、その言葉を使って感想を書くことが活動の振り返りにもなる。キーワードとなる言葉の意味の理解についても丁寧に行いたい。 ・「○○」って考えたんだね。「自分で考えたね！」といったフィードバックがあると、「自分が考えた」ことを子ども自身が意識化することができたかもしれない。また、感想を書く前にこのやり取りができると良かった。

(2) 東北聾教育研究大会

宮城県立聴覚支援学校の学校公開、重複障害分科会に1名参加し情報共有。

分科会研究テーマ「一人一人の障害の状態に応じた自立を目指し、
自ら関わろうとする力を育てるための指導・支援の在り方」

助言者：菅井 裕行 氏（宮城教育大学教授）

助言内容：分科会研究テーマの中の特にも「自ら関わろうとする力」という部分についての話をする。子ども達は、乳幼児期から二つの仕事をしている。一つは自分の周りを認知すること、もう一つは育ててくれる人との関係をつくることである。「これは何だろう？」と思う気持ちや自ら関わろうとする力は誰にでもある。子どもも大人も経験することは同じで、それをイメージすることも同じ、ただそれらを言葉にする力が弱いだけである。言葉にする力が弱いから、言葉を使って頭で考えたり、整理したりすることが難しい。したがって、教師には言葉を引き出す力が必要である。児童から言葉を引き出すために、5W1Hで順番に聞いていくのが良い。

所 感：「子どもも大人も経験することは同じで、それをイメージすることも同じ、ただそれらを言葉にする力が弱いだけである。」という内容が印象的だった。経験やイメージを言葉で表現できるようにするために、児童が話したいと思える環境作りや5W1Hで丁寧に確認していくことが必要であると感じた。

(3) 幼小学部研修会

「思考力・表現力を高めるための指導と支援の在り方

～自己理解と他者理解のもと未来を切り拓く～

講師：石川 敬 氏（元 盛岡聴覚支援学校校長）

内 容・聴こえない、聴こえにくいこと

- ・思考力・表現力、自己理解と他者理解
- ・経験と対話を通して失敗と過程の重要性
- ・サリバンの手紙、サリバンの記録からヘレン・ケラーとの関わり
- ・聴こえない、聴こえにくい人のセルフアドボカシースキル（自分を活かす交渉術）
- ・デフフッド（Deafhood）を導入した聾教育の実践
- ・社会を変えていく企業の取り組み スターバックス国立店 等

経験と対話について、専門性の前に目の前の子どもをみること、等、日々の関わりの中で、私たちが意識して考えていかなければならないことを改めて学ぶことができた。

5 実践のまとめ

(1) 成果と課題

- それぞれの教育課程に合った実践を見合うことができ、児童が「やって良かった」と振り返ることができる実践になった。
- 研究会では児童の意欲を引き出すための具体的な案が出され、次に生かせるヒントを得ることができた。また、研究授業日や研究会の日程を学校全体に周知し参観してもらうことで、客観的な意見を聞くことができた。様々な意見を参考にし、継続したり改善したりしていきたい。
- その子なりの力、考えで表現しようとしている授業は、「自己表現ができないことは、考えていないことではない」ということが分かった。それぞれの表現方法や言葉について、先生方がどこかで必ず触れて賞賛している点が良かった。
- 思考と言葉を結びつけるためには、経験と対話を繰り返すことや、言葉や絵、文のカード等の視覚的な支援を大いに活用していくことを確認することができた。
- それぞれの児童の実態に合わせた表現力を育むための支援。音声言語、手話、具体物の提示等、児童に合わせた表現方法を模索し、表現力を広げ深める実践をしていきたい。
- 授業で学んだことや理解したことを普段の生活の場で使えるような支援。学習内容を教師間で共有し、児童との「おしゃべり」の話題にしたり質問したりする場を増やしたい。
- 児童が自分の表現や発表のみでなく、他の子の表現に対して感想や意見をもととする態度を育てていくための、発表する場の設定や内容を工夫していきたい。
- より良い ICT 機器の活用法や実践例等を参考に教師の学びを深めていくこと。

(2) まとめ

各学級の授業実践を参観し合い研究会の場で意見を交わすことで、今年度は聴覚障がい教育の基本を振り返る機会となり、改めて学部児童の実態を共有することができた。

本校舎小学部は、個別学習が多い中、児童が複数で学習ができることは、友達の感想や意見を聞き、考えが広がることになり重要である。また、児童が経験したことや調べたことを伝えたいと思う気持ちに寄り添いながら、友達同士や教師と共有できる瞬間を大事に積み重ね、個々の「考える」を認め合い、様々な「言葉（表現）」に触れるきっかけにしたい。

次年度は、今年度の実践を通して明らかとなり共有できた児童の実態に合わせて、更なる思考力・表現力の発揮できる環境や支援の在り方について検討し実践を重ねていきたい。